

△この号は編集部の人々が調査旅行中のため事務委員等で編集した。不刷れのためうまい編集とはいえないが、投稿の豊富さは誇つていいと思う。投稿の如何が『研究通信』の値打をきめる。

△休暇上京中の喜多野先生が炎暑の中をしばしば事務局に足を運んで下さり編集に加わって下さったことも、同先生はじめ投稿者の方々に対する感謝と共に特記しておかなければならぬ。

△この号から印刷面で一躍進をした。かつてこの研究通信の第一号の印刷に対するゴウゴウたる非難「それをお寄せ下さった方々に感謝する」のあつたとともに、よき思出となる。

△会計報告記事にあるように時潮社の好意的御配慮で、今年度は例年の「無期限無利子借入金」の助けなしでやつてゆける。毎日新聞社からは来るべき大会への援助を約されてい

る。この両方によつて会計の見とおしは去年に比べいささか軽減しつつある。今年度分の会費(年額三百円)納入をお願いする。

△会計状況好転に応じて刊行の頻度ないしは頁数の増加を期するや切である。毎日新聞社の方々から、ひんびんと投稿されたい。四百字詰二枚(一枚をだいたいの標準として)御投稿を乞う。

(臨時編集者の一人)

(内外出版タイプ納)